

令和5年度  
島根県学力調査  
結果概要

令和6年2月14日（水）  
島根県教育委員会

# I 実施概要

## 1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

## 2 実施日

令和5年12月5日（火）・6日（水）

## 3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 197校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 97校

義務教育学校 2校

（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

## 4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R4.9.1現在)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第5学年	実施人数	5,310	5,307		5,309	5,610
		割合(%)	94.7	94.6		94.6	
	第6学年	実施人数	5,332	5,336		5,339	5,673
		割合(%)	94.0	94.1		94.1	
中学校	第1学年	実施人数	4,946	4,961	4,958	4,951	5,496
		割合(%)	90.0	90.3	90.2	90.1	
	第2学年	実施人数	4,907	4,917	4,917	4,926	5,563
		割合(%)	88.2	88.4	88.4	88.5	

## 5 県調査の考え方・特徴

(1) 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という。）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。

②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身につけるべき力を着実に身につけられるようにする。

(2) 教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票と Web 評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web 上で結果データを分析することができる Web 評価支援システムを提供する。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

## 6 用語

○平均正答率：設問の正答率の平均値

・島根県値：県内の受検者の正答率の平均値

・全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

## 7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和5年度島根県学力調査 結果概要 \*本資料

I 実施概要

II 教科に関する調査の結果

III 意識調査の結果概要

IV 今後の対応

## II 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。

島根県値：県内の受検者の正答率の平均値

全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

### 【小学校国語】

#### 1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		67.4	69.9	59.1	66.6
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	66.4	69.6	71.3	75.3
	書くこと	59.0	64.1	54.5	67.6
	読むこと	65.2	67.5	60.6	67.6
	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.0	75.0	56.7	62.9
	情報の扱い方に関する事項	35.9	37.2	43.5	55.3
	我が国の言語文化に関する事項	47.4	50.7	65.2	73.1

#### 【令和5年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

A 資料となる複数の情報を関連付けて、自分の考えを表現することに課題がみられる。

B 多くの資料を読み取り、そこから必要な情報を取り出す力が弱い。特に文章で表現された内容の読み取りが不十分である。

#### 【今年度県調査の状況】

・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。

・各領域について、第5学年は「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」は全国値並みで、他の領域は全国値を下回った。第6学年は全領域で全国値を下回った。

① 物語の読み取りについて、第5学年では心情把握、第6学年では表現の効果についての把握が概ねできている。

② 第5学年では、既習漢字の読み書きや敬語については概ね理解できている。

③ 第6学年では、「話すこと・聞くこと」において全国値との差が比較的小さく、話の内容を聞き取ることは概ねできている。

❶ 「書くこと」では、複数の情報を読み取り、字数や段落構成など指定された条件にしたがって作文することに課題があり、無解答率が2割程度ある。…A・B

❷ 第5学年では、漢字の構成や文法の理解に課題がある。

❸ 第6学年では、説明文の文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。

#### 2 比較的できている問題

##### 第5学年（1）

[問題番号] 2（1）③「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ☞②  
[島根県値 95.8%]  
[全国値 95.6%]

[問題内容]

漢字を読む。

[出題のねらい]

第5学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

##### 第6学年（1）

[問題番号] 1（1）「話すこと・聞くこと」 ☞③  
[島根県値 93.0%]  
[全国値 93.9%]

[問題内容]

インタビューの内容を報告する文の空欄に当てはまる言葉を書く。

[出題のねらい]

インタビューを聞き取り、話の内容を捉えているかをみる。

## 第5学年（2）

〔問題番号〕 4（1）「読むこと」 ①  
[島根県値 79.9%]  
[全国値 83.2%]

〔問題内容〕

登場人物の心情として最も適切なものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

登場人物の心情について、描写を基に捉えることができるかをみる。

## 第6学年（2）

〔問題番号〕 4（3）「読むこと」 ①  
[島根県値 87.0%]  
[全国値 91.1%]

〔問題内容〕

表現の効果を述べた文の空欄にあてはまる言葉として最も適切なものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができているかをみる。

## 3 課題のある問題

### 第5学年（1）

〔問題番号〕 3（2）「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ②  
[島根県値 21.0%]  
[全国値 25.0%]

〔問題内容〕

指定された語句が修飾している語句を選ぶ。

〔出題のねらい〕

連用修飾語の係り受けを理解しているかをみる。

### 第6学年（1）

〔問題番号〕 7「書くこと」 ①  
[島根県値 54.1%]  
[全国値 69.1%]

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件をふまえながら、自分の意見を明確にして文章を書くことができるかをみる。

### 第5学年（2）

〔問題番号〕 7「書くこと」 ①  
[島根県値 59.0%]  
[全国値 67.1%]

〔問題内容〕

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕

条件をふまえながら、理由を明確にして文章を書くことができるかをみる。

### 第6学年（2）

〔問題番号〕 5（1）「読むこと」 ③  
[島根県値 26.1%]  
[全国値 32.2%]

〔問題内容〕

説明文の要旨と説明の仕方として最も適切なものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

文章全体の構成を捉えて、要旨を把握しているかをみる。

## 4 今後の指導のポイント

- (1) 「書くこと」において、複数の条件を示して意見文を書く学習を工夫・充実する。
  - ・「書くこと」の言語活動の際には、文字数や時間の指定、理由や根拠を示すことなど複数の条件を提示し、繰り返し書く経験を積む機会を設定する。
  - ・文章の加除修正や共有が容易にできる ICT 機器を有効に活用し、言語活動の充実を図る。
- (2) 「読むこと」において、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する学習を工夫・充実する。
  - ・事実と意見、理由と根拠等を明示することで、文章全体の展開を捉えさせる。
  - ・段落相互の関係を図や表にまとめて整理する学習活動を取り入れる。
  - ・視覚的効果による理解につながる ICT 機器を有効に活用する。
- (3) 国語科の学習内容を、他教科の学習や日常の教育活動の中でも活用するように促す。
  - ・学習した言葉や漢字を日常の言語生活で繰り返し活用し定着を図るようにする。
  - ・総合的な学習の時間など他教科の学習場面において、国語科の既習事項を積極的に活用する場면을繰り返し設定する。

## 【小学校算数】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		55.0	58.3	67.4	73.8
領域別 平均正答率	数と計算	58.3	62.6	67.1	73.8
	図形	61.6	65.7	74.7	77.2
	変化と関係	40.0	39.1	48.3	64.4
	データの活用	35.0	35.3	-	-

#### 【令和5年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

A 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる2つの数量の関係について考察することに課題がある。

B 図形を構成する要素などに着目して、図形の性質や計量などについて考察することに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
- ・領域別平均正答率の島根県値は、第5学年の「変化と関係」「データの活用」は全国値並みであった。その他の領域はいずれも全国値を下回った。

① 「数と計算」については、筆算の計算問題は正しく計算することができる。

② 「図形」の基礎的な内容については概ね定着している。…B

① 「変化と関係」について、第6学年は比の理解や比の値について理解することに課題がある。…A

② 式や言葉を用いて記述することに課題がある。

### 2 比較的できている問題

#### 第5学年（1）

〔問題番号〕 3 (3) 「数と計算」 ① [島根県値 70.0%] [全国値 69.3%]
〔問題内容〕 小数第二位÷小数第一位の計算をする。
〔出題のねらい〕 小数第二位÷小数第一位＝小数第一位の計算ができるかをみる。

#### 第6学年（1）

〔問題番号〕 9 「図形」 ② [島根県値 79.8%] [全国値 77.8%]
〔問題内容〕 色のついた部分の面積を求める式を選ぶ。
〔出題のねらい〕 円と三角形を組み合わせた図形の面積の求め方を示した図から、その求め方にある式を選ぶことができるかをみる。

#### 第5学年（2）

〔問題番号〕 16 (1) 「変化と関係」 [島根県値 62.4%] [全国値 61.6%]
〔問題内容〕 5試合の得点から1試合に平均何点得点したかを求める。
〔出題のねらい〕 値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求めることができるかをみる。

#### 第6学年（2）

〔問題番号〕 15 (2) 「図形」 ② [島根県値 82.7%] [全国値 82.0%]
〔問題内容〕 点対称な図形の対称の中心から対応する点までの長さを求める。
〔出題のねらい〕 点対称な図形の対称の中心から対応する2つの点までの長さについて理解しているかをみる。

### 3 課題のある問題

#### 第5学年（1）

〔問題番号〕 3（5） 「数と計算」  
〔島根県値〕 55.4%  
〔全国値〕 63.5%

〔問題内容〕

帯分数－真分数の計算をする。

〔出題のねらい〕

帯分数－真分数＝真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算（約分あり）ができるかをみる。

#### 第6学年（1）

〔問題番号〕 13（1） 「変化と関係」 ①  
〔島根県値〕 44.9%  
〔全国値〕 68.4%

〔問題内容〕

小数で表された比と等しい比を選ぶ。

〔出題のねらい〕

等しい比について理解しているかをみる。

#### 第5学年（2）

〔問題番号〕 15（1） 「変化と関係」 ②  
〔島根県値〕 17.3%  
〔全国値〕 15.3%

〔問題内容〕

それぞれの部屋のたたみの数と子どもの人数からどちらがこんでいるかを説明する。

〔出題のねらい〕

1人あたりのたたみの数やたたみ1枚あたりの人数を求めて、どちらの部屋がこんでいるのかを説明することができるかをみる。

#### 第6学年（2）

〔問題番号〕 14（2） 「数と計算」 ②  
〔島根県値〕 12.3%  
〔全国値〕 19.8%

〔問題内容〕

整数÷分数の計算の仕方を整数だけのわり算にして計算する方法を説明する。

〔出題のねらい〕

分数のわり算を、被除数と除数に同じ数をかけて、整数のわり算にして計算する方法を説明することができるかをみる。

### 4 今後の指導のポイント

#### （1） 日常の事象から問題を見だし解決する活動の充実を図る。

- ・比は、日常生活のいろいろな場面で用いられる。部分と部分の関係どうしを考察する場面、2つの数量を配分する場面など具体的な場面で、等しい比やその意味について理解させる。また、日常生活において、比によって数量の関係を表現している事象を探る活動を通して、比による数量の関係への着目の仕方に親しませることも大切である。

#### （2） 図や式の意味を言葉で説明する活動の充実を図る。

- ・計算の仕方を学ぶ際には、意味を踏まえないまま公式などを暗記させたり、計算を形式的に速く処理できることを技能として求めたりするなど、形式的な学習指導に終わるのではなく、式で表されている関係を自分なりに表現させるようにする。

## 【中学校国語】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	60.1	62.0	66.1	67.8	
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	87.3	87.7	72.6	73.0
	書くこと	54.1	57.8	48.6	53.4
	読むこと	63.2	63.6	67.5	69.0
	言葉の特徴や使い方に関する事項	57.3	59.7	77.3	78.3
	情報の扱い方に関する事項	41.5	40.1	51.2	52.8
	我が国の言語文化に関する事項	26.7	25.4	68.3	66.3

#### 【令和5年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- A 複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えること、それをもとに自分の考えを形成して文章を書くことに課題がある。
- B 表現の効果について、観点を明確にして文章を比較したり根拠を明確にして文章を書いたりすることに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第1学年・第2学年とも全国値並みであった。
  - ・各領域について、「書くこと」は第1学年・第2学年とも全国値を下回った。その他の領域は、第1学年は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国値を下回り、他の領域は全国値並み、第2学年は「我が国の言語文化に関する事項」で全国値を上回り、他の領域は全国値並みであった。
- ①「複数の資料を比較して情報と情報との関係を捉えること、それをもとに自分の考えを形成して文章を書くこと」については、第1学年を中心に改善が見られた。…A
  - ② 文法や語句に関する理解は概ねできており、昨年度県調査の課題であった歴史的仮名遣いの理解も改善した。
  - ③ 話を聞いて展開を捉え、発言を比較しながら自分の考えをまとめ、表現することは概ねできている。
- ❶ 作文問題の無解答率が高く、資料から読み取った内容を明確にしてまとめた分量の文章を書くことや、問題全体の時間配分等に課題がある。
  - ❷ 第2学年で、文章の表現の効果について根拠を明確にして捉えることに課題がある。…B
  - ❸ 熟語を読むことや字形が似ている漢字を書き分けることに課題がある。

## 2 比較的できている問題

### 第1学年（1）

〔問題番号〕 1 (3) 「話すこと・聞くこと」 ☞③ [島根県値 85.3%] [全国値 83.4%]
〔問題内容〕 話合いで出された意見の問題点を書く。
〔出題のねらい〕 話題や展開を捉えながら話合いを聞き取り、互いの発言を結び付けて考えをまとめられるかをみる。

### 第2学年（1）

〔問題番号〕 3 (3) ② 「我が国の言語文化に関する事項」 ☞② [島根県値 61.1%] [全国値 55.6%]
〔問題内容〕 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す。
〔出題のねらい〕 歴史的仮名遣いについて理解しているかをみる。

### 第1学年(2)

[問題番号] 6 (3) 「情報の扱い方に関する事項」・「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値 37.9%]  
 [全国値 35.0%]

[問題内容]

資料をもとに、レポートの空欄に当てはまる文章を書く。

[出題のねらい]

情報と情報との関係について理解し、考えが伝わる文章になるように工夫できるかをみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 6 (1) 「情報の扱い方に関する事項」・「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値 39.1%]  
 [全国値 39.0%]

[問題内容]

資料をもとに、レポートの空欄に当てはまる文章を書く。

[出題のねらい]

情報と情報との関係について理解し、読み手の立場に立って文章を整えられるかをみる。

## 3 課題のある問題

### 第1学年(1)

[問題番号] 2 (2) ③ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」 ㊦③  
 [島根県値 72.6%]  
 [全国値 82.4%]

[問題内容]

かなを漢字に直して書く。

[出題のねらい]

小学校で学習した漢字を正しく書くことができるかをみる。

### 第2学年(1)

[問題番号] 5 (2) 「読むこと」 ㊦②  
 [島根県値 66.2%]  
 [全国値 69.1%]

[問題内容]

文章の表現についての説明として正しいものを選ぶ。

[出題のねらい]

文章の表現の効果について正しく捉えることができるかをみる。

### 第1学年(2)

[問題番号] 7 「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値 54.6%]  
 [全国値 61.2%]

[問題内容]

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

[出題のねらい]

条件をふまえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 7 「書くこと」 ㊦①  
 [島根県値 44.5%]  
 [全国値 51.5%]

[問題内容]

字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

[出題のねらい]

条件をふまえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

## 4 今後の指導のポイント

- (1) 指定された条件に応じて、読み取った内容を明確にしてまとめた分量の文章を書くための学習過程を工夫する。
  - ・ 字数や時間など指定された条件に応じて文章を書く学習活動や、書いた文章を観点に沿って互いに吟味し合う学習活動を、ICT 機器を有効に活用しながら繰り返し設定する。
  - ・ 集めた資料や図表などから複数の情報を取り出して比較・分析し、自分の考えの根拠や反論への対応を導き出すなど、多様な考えを経験し、互いに交流させる学習活動を設定する。
- (2) 文学的文章を俯瞰的に捉えて作者の表現意図について考える学習過程を工夫する。
  - ・ 同じ題材を取り上げた別の作品や、同じ作者の異なる作品など、複数のテキストを扱い、特徴や共通点・相違点を比較することから作品に込められた作者の表現意図を考えることができるような学習活動を設定する。
- (3) 国語科の学習内容を、日々の教育活動の中で繰り返し活用する場面を工夫する。
  - ・ 他教科や総合的な学習の時間等の学習、家庭学習、日常生活なども含めて、既習事項を活用する場面を繰り返し設定する。
  - ・ 漢字の学習では、書写も含めた手書きの経験に加え、ICT 機器の有効活用により定着を図る。

## 【中学校数学】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題)

(%)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	51.9	53.7	47.4	50.1	
領域別 平均正答率	数と式	51.3	52.9	44.2	46.9
	図形	69.6	69.1	64.1	64.4
	関数	47.9	48.5	43.7	46.7
	データの活用	-	-	-	-

#### 【令和5年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

A 「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解に課題がみられる。

B 「図形」の基本的な性質についての理解に課題がみられる。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第1学年が全国値並みで、第2学年は全国値を下回った。
- ・領域別平均正答率の島根県値は、第1学年の全領域及び第2学年の「図形」は全国並みであった。その他の領域はいずれも全国値を下回った。

- ① 全国調査では、「図形」の基本的な性質についての理解に課題が見られたが、第1学年は平面図形の移動、第2学年は平行線や多角形の性質等について、意味理解の定着が見られた。…B
- ② 両学年とも、「数と式」についての基本的な計算は、概ね定着している。
- ③ 第1学年の「関数」については、式、表、グラフの意味理解ができています。
- ① 「数と式」の数に関する基本的な意味及び概念の理解については、第1学年において正の数・負の数の大小、絶対値、基準との差を正の数・負の数を用いて表すことの理解に課題が見られた。…A
- ② 「関数」について、第2学年は基礎的な概念や性質を理解することに課題があり、第1学年は具体的な事象における考察に課題がある。

### 2 比較的できている問題

#### 第1学年（1）

〔問題番号〕 13 「関数」 ㊦③
〔島根県値〕 48.9%
〔全国値〕 47.2%
〔問題内容〕
反比例の関係を利用して、ある視力についてランドルト環のすき間の長さを求める。
〔出題のねらい〕
反比例の式や特徴を問題解決に活用できるかをみる。

#### 第2学年（1）

〔問題番号〕 12 「図形」 ㊦①
〔島根県値〕 57.7%
〔全国値〕 54.0%
〔問題内容〕
同位角、錯角の位置関係を正しく説明しているものを選ぶ。
〔出題のねらい〕
同位角、錯角の位置関係について正しく理解しているかをみる。

#### 第1学年（2）

〔問題番号〕 15 「図形」 ㊦①
〔島根県値〕 70.3%
〔全国値〕 67.4%
〔問題内容〕
△ABCを直線 <i>l</i> を対称の軸として対称移動させた図形を作図する。
〔出題のねらい〕
対応する2点を結ぶ線分と対称の軸との関係を理解し、正しく作図できるかをみる。

#### 第2学年（2）

〔問題番号〕 3（2） 「数と式」 ㊦②
〔島根県値〕 53.8%
〔全国値〕 51.5%
〔問題内容〕
連立方程式を代入法を用いて解く。
〔出題のねらい〕
代入法の原理を理解し、連立方程式を解くことができるかをみる。

### 3 課題のある問題

#### 第1学年（1）

〔問題番号〕 2 「数と式」 ㊦①
〔島根県値〕 43.0%
〔全国値〕 47.8%
〔問題内容〕
基準をもとに貸出冊数を正の数・負の数を使ってあらわした表から、冊数の差を求める式を選ぶ。
〔出題のねらい〕
基準をもとに正の数・負の数を使ってあらわした表の意味と2数の差を求める式の表し方について、理解できているかをみる。

#### 第2学年（1）

〔問題番号〕 5 「数と式」
〔島根県値〕 16.7%
〔全国値〕 24.3%
〔問題内容〕
ある美術館における一般料金と団体料金について、文章と表をもとに連立方程式をたてる。
〔出題のねらい〕
事象から数量関係を読み取り、正しく連立方程式をたてることができるかをみる。

#### 第1学年（2）

〔問題番号〕 8 「数と式」 ㊦①
〔島根県値〕 48.4%
〔全国値〕 53.3%
〔問題内容〕
比例式を解く。
〔出題のねらい〕
比例式の性質、比の値について理解し、一次方程式に帰着させて解を求めることができるかをみる。

#### 第2学年（2）

〔問題番号〕 8（1） 「関数」 ㊦②
〔島根県値〕 57.3%
〔全国値〕 62.7%
〔問題内容〕
一次関数において、 $x$ の増加量から $y$ の増加量を求める。
〔出題のねらい〕
一次関数の基本的な性質について、表、式、グラフと関連付けて理解し、 $x$ の増加量に対しての $y$ の増加量を求めることができるかをみる。

### 4 今後の指導のポイント

#### （1）関数における次の過程等を重視した数学的活動の充実を図る。

- ・関数の基本的な概念や性質について、表、式、グラフを相互に関連付けて考察する過程。
- ・日常や社会の事象を関数と捉えて問題を見出す過程。
- ・結果だけではなく、問題解決の過程を、表、式、グラフ等の数学的な表現を用いて説明する活動。

#### （2）基本的な概念や法則の着実な理解・定着を図る。

- ・問題解決的な学習の場面のみならず、基本的な概念や法則を見出す場面において、自立的・協働的に数学的活動の楽しさや数学のよさを実感できるような活動を充実させ、数学的活動を通じた概念や法則の理解に裏付けられた発展性のある知識及び技能を身につけさせる。

## 【中学校英語】

### 1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年		第 1 学年		第 2 学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		51.0	54.2	47.2	50.1
領域別 平均正答率	聞くこと	60.3	63.9	53.8	58.5
	話すこと	-	-	-	-
	読むこと	51.4	53.9	51.7	54.4
	書くこと	41.9	46.2	33.5	34.9

#### 【令和5年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- A 音声や語彙、表現、文法や言語などの働きなどを理解するとともに、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用する技能に課題がある。
- B 文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。

#### 【今年度県調査の状況】

- ・ 県平均正答率の島根県値は、第1学年、第2学年とも全国値を下回った。
  - ・ 領域別に見ると、第1学年では全ての領域で全国値を下回った。第2学年は「聞くこと」「読むこと」の領域は全国値を下回り、「書くこと」の領域は全国値並みであった。
- ① 第1学年は、「読むこと」においては、短い英文や対話を読んで、その要点を捉える力は概ね定着している。
  - ② 第1学年は、「書くこと」においては、疑問詞を用いて、正しい語順で書く力が全国値を上回った。
  - ③ 第2学年は、「読むこと」においては、対話の内容を読んで理解し、話の流れに合う適切な疑問詞、接続詞等を用いる力は概ね定着している。
  - ④ 第2学年は、「書くこと」においては、対話の流れに合うように、語（句）を並べ替えて文を書く力は概ね全国並みであり、接続詞 if を含んだ並べ替えについては、全国を8.1ポイント上回った。
- ❶ 対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答することに課題が見られる。…A
- ❷ 与えられたテーマについて、具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題が見られ、無解答率が高い。…B

### 2 比較的できている問題

#### 第1学年（1）

〔問題番号〕 5（2）①「読むこと」㊦①  
 [島根県値 84.4%]  
 [全国値 80.5%]

#### 〔問題内容〕

文意から適切な語を選択する。

#### 〔出題のねらい〕

英文の情報を読み取り、その内容を理解し、語彙の知識や表現を活用する力をみる。

#### 第2学年（1）

〔問題番号〕 6（1）①「読むこと」㊦③  
 [島根県値 75.3%]  
 [全国値 74.5%]

#### 〔問題内容〕

対話文を読み、対話が成り立つように空欄に入る適切な一語を選ぶ。

#### 〔出題のねらい〕

対話の内容を読んで理解し、話の流れに合う適切な疑問詞を選択する力をみる。

### 第1学年(2)

[問題番号] 8 (3) 「書くこと」 ㊦②  
[島根県値 41.3%]  
[全国値 37.7%]

[問題内容]

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて文を書く。

[出題のねらい]

What を含む疑問文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 9 (2) 「書くこと」 ㊦④  
[島根県値 44.0%]  
[全国値 35.9%]

[問題内容]

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて文を書く。

[出題のねらい]

接続詞 if を含む文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

## 3 課題のある問題

### 第1学年(1)

[問題番号] 2 (2) 「聞くこと」 ㊦①  
[島根県値 37.0%]  
[全国値 48.0%]

[問題内容]

短い対話を聞いて、対話の最後に入る適切な文を選ぶ。

[出題のねらい]

対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答する力をみる。

### 第2学年(1)

[問題番号] 2 (1) 「聞くこと」 ㊦①  
[島根県値 49.5%]  
[全国値 60.6%]

[問題内容]

短い対話を聞いて、対話の最後に入る適切な文を選ぶ。

[出題のねらい]

対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答する力をみる。

### 第1学年(2)

[問題番号] 10 「書くこと」 ㊦②  
[島根県値 31.3%]  
[全国値 40.8%]

[問題内容]

与えられたテーマについて、説明するまとまりのある文章を3文以上の英文で書く。

[出題のねらい]

テーマにそって、具体的な説明を加え、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝えるように書く力をみる。

### 第2学年(2)

[問題番号] 11 「書くこと」 ㊦②  
[島根県値 32.2%]  
[全国値 43.9%]

[問題内容]

メールでの質問に対して、具体的な理由や説明をつけ加えて、3文以上の英文を書く。

[出題のねらい]

テーマにそって、まとまった内容で紹介する英文を、相手に伝えるように書く力をみる。

## 4 今後の指導のポイント

### (1) 基本的な文法事項を理解して、即興で伝え合うことができるようにする。

- ・対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答するには、文法事項の形式や意味の理解に加え、どのような場面で使用できるのか理解すること、そして実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることが重要である。
- ・指導に当たっては、「聞くこと」における ICT 機器の活用や身の回りのことで生徒が共通して関心をもっていることについて、即興で相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合いながら、会話を継続・発展させる活動に取り組むことが考えられる。

### (2) テーマについて事実や考えを整理し、文章構成を判断して、文と文のつながりなどに注意しながらまとまりのある文章を書くことができるようにする。

- ・テーマについてまとまりのある文章を書くために、説明文を書く際には「主題とその具体例」を、意見文を書く際には「最も伝えたいこととその理由」など、目的に応じて文章構成を判断するように指導することが大切である。
- ・言語活動を行うに当たっては、書く内容を目的に応じて選んだり、どういう構成がよいか判断したり、相手や目的によって表現を工夫したりすることが大切である。また、書き表したものをペアやグループで読み合い、言語面での気付きを共有したり、内容や構成、表現方法について質問したり、コメントを述べたりし、その内容を参考に推敲するなどの指導を行うことが必要である。

### Ⅲ. 意識調査の結果概要

#### 1 しまねの学力育成推進プランの達成状況を把握する質問項目

##### (1) 授業の質の充実

- ①学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う。
- ②(国語)話し合いで、自分の考えを積極的に話している。
- ③(国語)話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている。
- ④(国語)伝えたいことを明らかにして、文章を書いている。
- ⑤今年度の授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと思う。
- ⑥今年度の授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。
- ⑦授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。
- ⑧(算数・数学)問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている。

##### 【令和5年度全国調査(4月実施)の本県の課題】

- 小学校では、目的を明確にした対話的な学習が展開される割合が増えている。児童生徒が自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる場が十分に設定されていると考えられる。今後は、話し合いの質を高めるために、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすること」「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表すること」等への手立てが必要である。
- 授業において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動が工夫されており、多くの児童生徒がそれを実感している。引き続き、協働的な学びと個別最適な学びの一体的な充実に向けた授業改善に取り組む必要がある。また、各校においてICT機器の活用が目的とならないよう授業改善の一つの手段として意識し、効果的な日常活用を推進する必要がある。
- 学習指導要領では、カリキュラム・マネジメントが求められているが、各教科の学びを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設ける割合が減少している。各校において、校長のリーダーシップのもと、教師が連携し、複数の教科等の連携を図りながら授業づくりを進める必要がある。

##### (2) 家庭学習の充実

- ⑨学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強をしますか。
- ⑩自分で勉強の計画を立てて、勉強している。
- ⑪家の人から言われなくても、進んで勉強している。

##### 【令和5年度全国調査(4月実施)の本県の課題】

- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度よりも低くなった。特に、中学校では依然として全国値との差が大きい。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた割合は児童生徒ともに全国値よりも高い。また、平日に学習を「全くしない」と答えた割合は全国よりも低い値となっている。休日においては、児童生徒ともに1日1時間以上勉強する割合が全国値を上回っている。引き続き、家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。

##### (3) 地域に関わる学習の充実

- ⑫「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。
- ⑬地域の行事に参加している。

##### 【令和5年度全国調査(4月実施)の本県の課題】

- 学校では、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導が十分に展開されていると考えられる。自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えた生徒は全国値を上回っている。一方、児童は全国値を下回っている。引き続き、昨年度発行した「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業づくり」を行う必要がある。

- 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、コロナ禍で活動が制限される中でも、児童生徒とも全国値を上回っている。これは、県が進めるふるさと教育の成果であると考えられる。今後も地域での体験や素材を教科等の特質に応じて活用し、児童生徒の興味関心を高めていく必要がある。

## 2 課題の改善状況

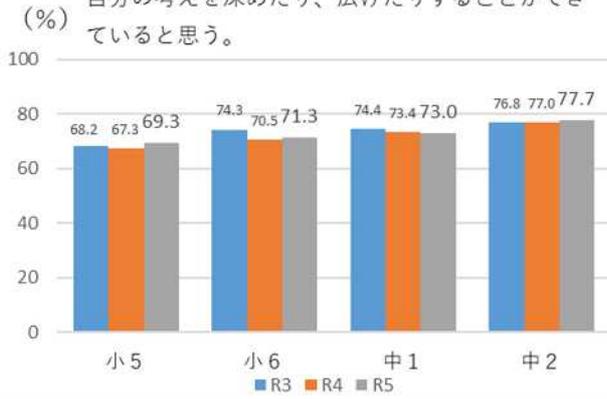
※数値は質問紙において「とてもあてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をした割合。

※グラフの◆は、全国値を示している。◇のないグラフは県独自の設問。

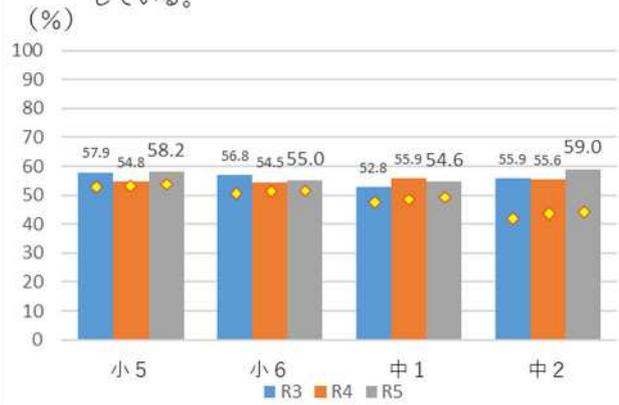
### (1) 授業の質の充実

- 「話し合いで、自分の考えを積極的に話している。」「話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている。」について、児童生徒ともに全国値並みもしくは上回っている。  
また、「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」の割合は、学年が上がるにつれて高くなっている。小学校・中学校等で考えを広げたり、深めたりする場面が設定されるなど授業改善が着実に図られている。  
「話し合う目的や話し合いの視点を児童生徒が理解できるように提示すること」を今後も重視し、児童生徒が自分の意見を明確にもち、相手に伝えようとする意識を高めていけるような授業改善を続けることが必要である。
- 各校において、授業における ICT 機器の活用が着実に進み、児童生徒が ICT 機器を活用しているという意識も高まっている。引き続き各校における ICT 機器の効果的な活用の実践例を校内で共有し、さらに推進していく必要がある。  
また、「今年度の授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたと思う。」では、約7割から8割の児童生徒が肯定的に回答をしている。肯定的な回答をしなかった児童生徒についても意識しながら、引き続き、児童生徒の実態に合わせた「個別最適な学び」の充実のための授業改善に取り組む必要がある。
- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。」については、全体として下降傾向にある。各校において、校長のリーダーシップのもと全体計画や年間指導計画等について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成するなど、全職員で連携を図る必要がある。  
教師一人ひとりが、教科間、学年間の関連を図りながら授業づくりをしていくことで、児童生徒自身が、各教科等の既習事項を活用したり、見方・考え方を働かせたりして学習に取り組むことができるようにする必要がある。

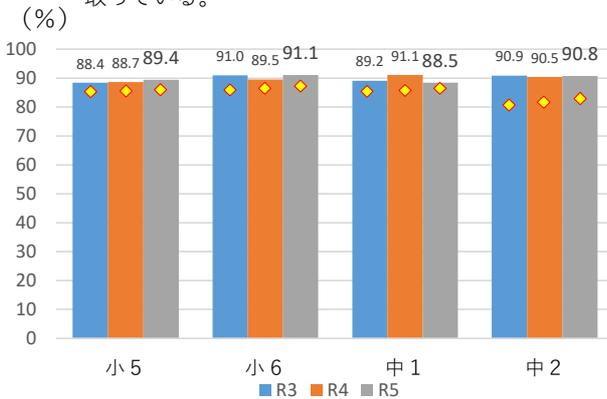
①学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。



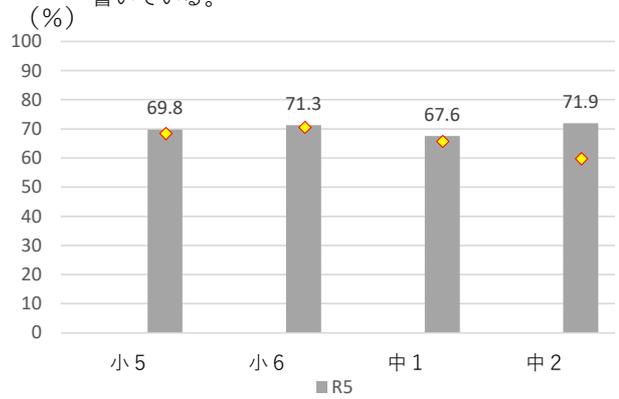
②(国語)話し合いで、自分の考えを積極的に話している。



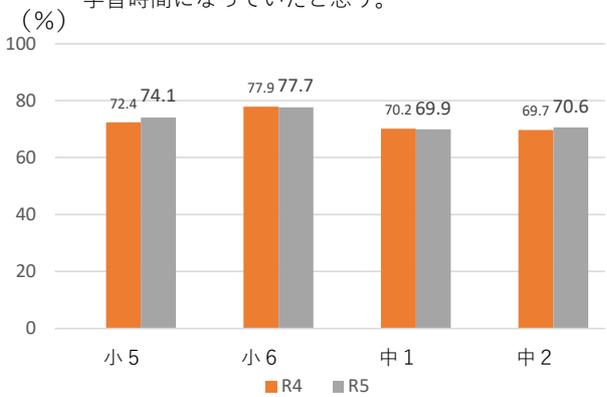
③(国語)話し合いで、相手の話をしっかり聞き取っている。



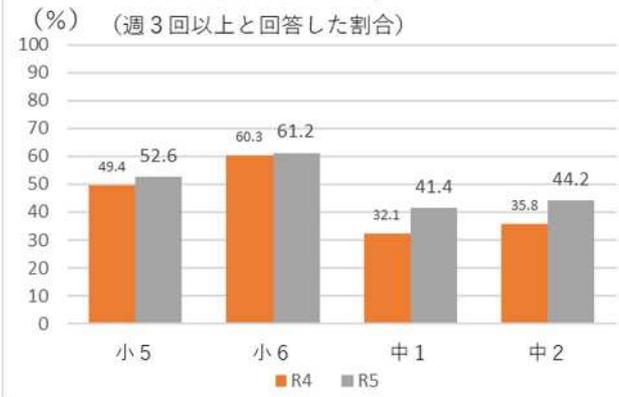
④(国語)伝えたいことを明らかにして、文章を書いている。



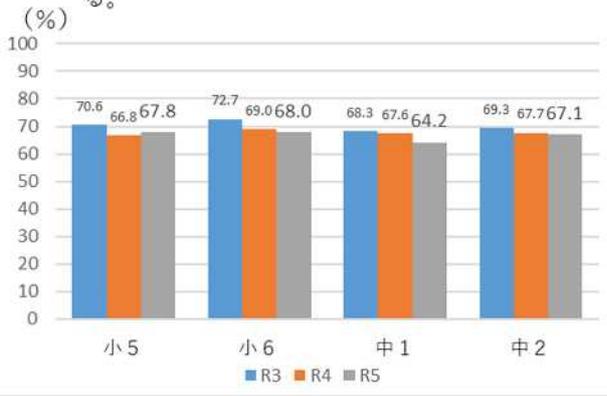
⑤今年度の授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間になっていたと思う。



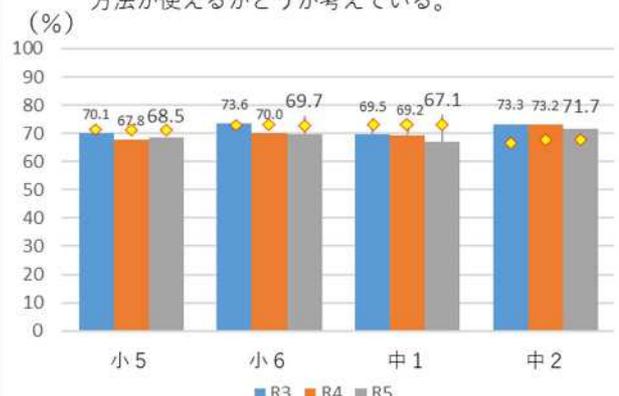
⑥今年度の授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。(週3回以上と回答した割合)



⑦授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。



⑧(算数・数学)問題を解くときは、以前解いた方法が使えるかどうか考えている。

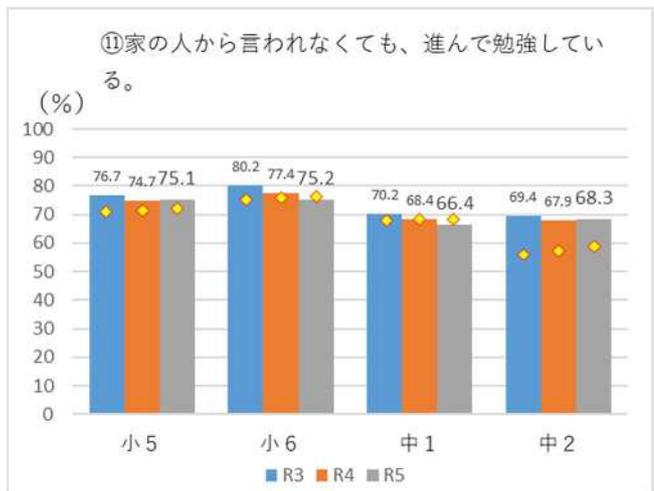
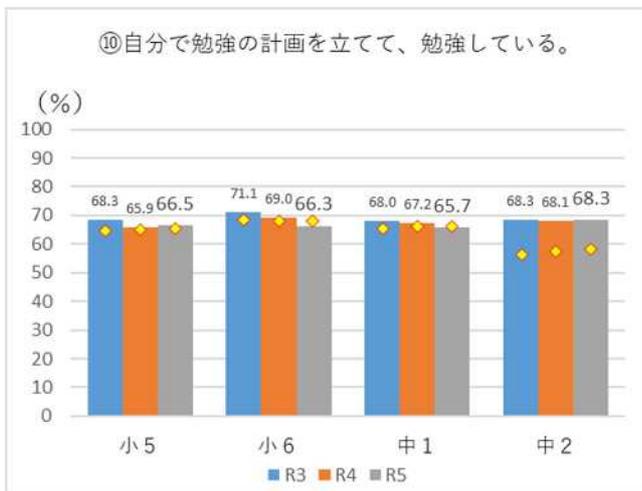
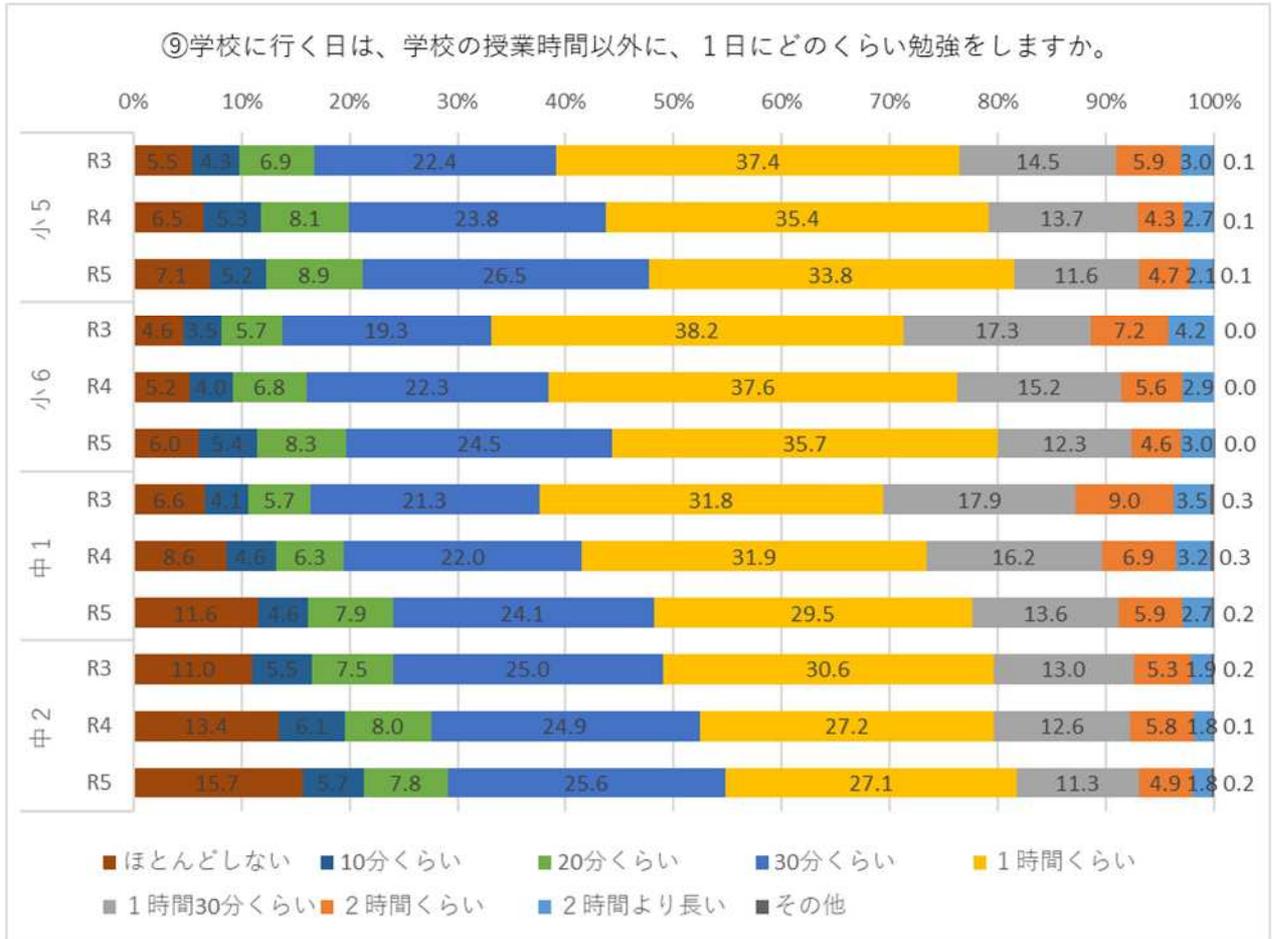


(2) 家庭学習の充実

○ 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度よりも低くなった。特に、学年が上がるにつれて、「ほとんど学習しない」割合が高まっている。

しかし、「自分で勉強の計画を立てて、勉強している」「家の人に言われなくても、進んで勉強している」と答えた割合は全国値並みもしくは上回った。今後も引き続き、家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう具体例を挙げながら指導する必要がある。

また、1人1台端末等を活用し、個に応じた家庭学習を充実させていく必要がある。



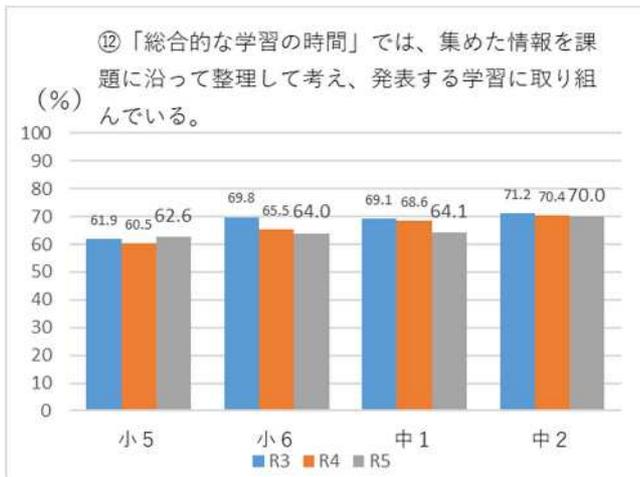
### (3) 地域に関わる学習の充実

- 本年度の全国学力学習状況調査の学校質問紙において、「調査対象学年の児童生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか」については、9割の学校が肯定的な回答をしている。一方、「『総合的な学習の時間』では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。」について、肯定的な回答は6割から7割であり、教師と児童生徒の受け止めの間にギャップが見られる。

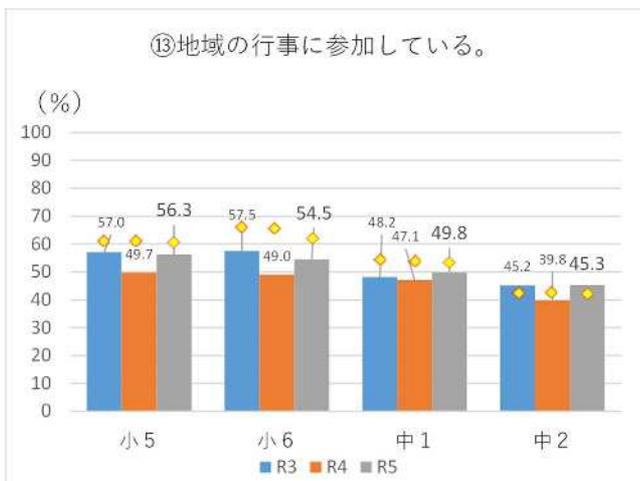
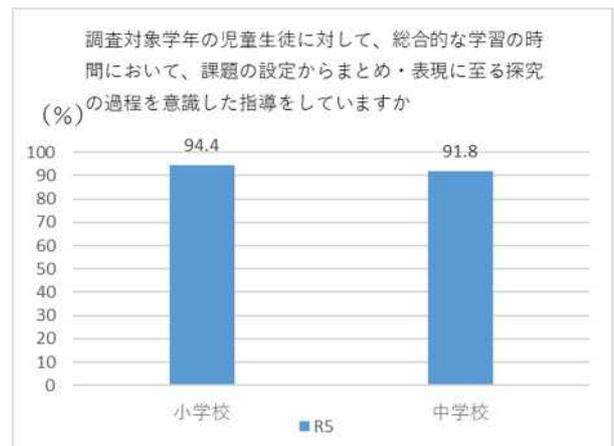
探究の過程を意識した学びのよさを、児童生徒自身が理解し実感できるような授業改善が引き続き求められる。

- 地域における活動がコロナ禍以前に戻りつつあり、地域行事への児童生徒の参加についても数値が令和4年度より増加している。

児童生徒と地域とのつながりを生かしながら、総合的な学習の時間やその他の教科で児童生徒が身近なものとして主体的に追究できる地域素材を活用した学習を展開する必要がある。また、地域に対する関わり方を考えさせるなど、主権者教育の視点からの地域の人・こと・ものの活用も求められる。



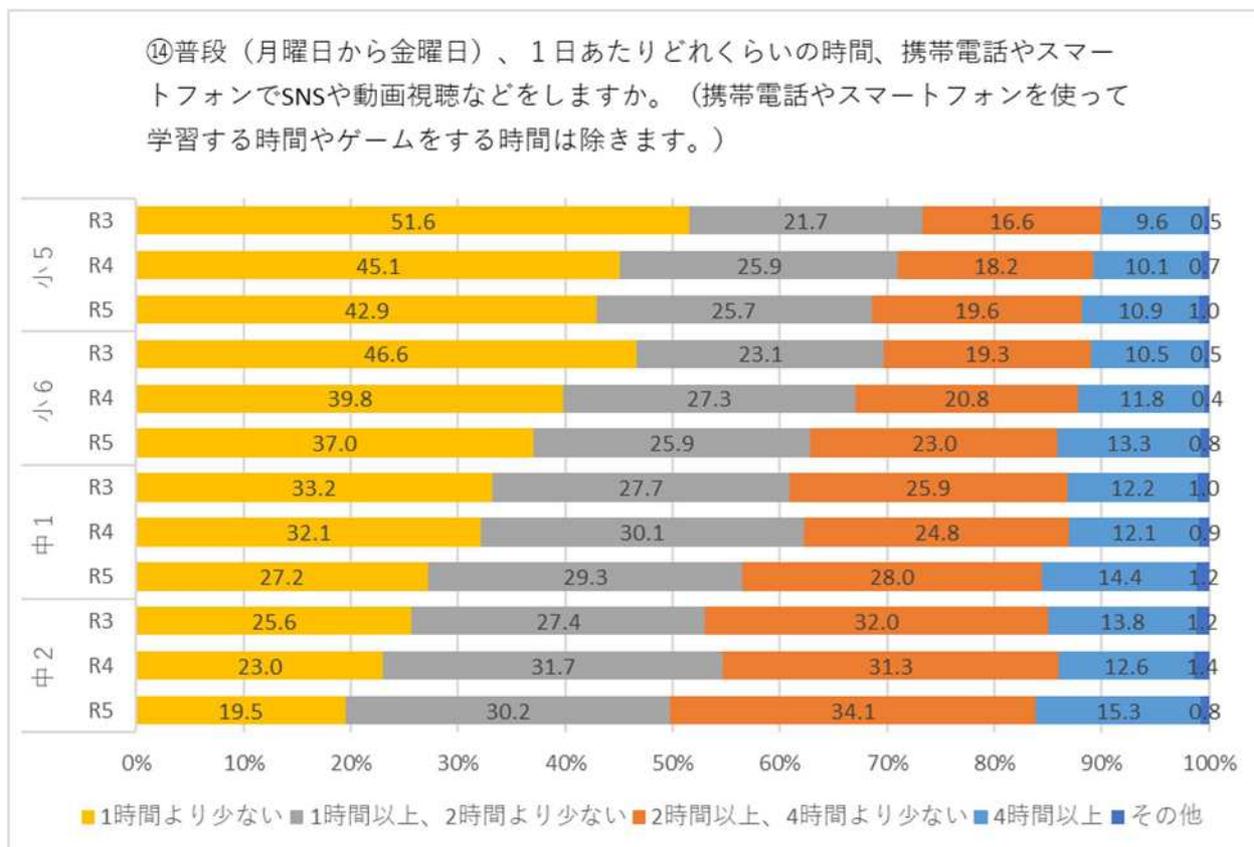
【参考】令和5年度 全国学力学習状況調査 学校質問紙



#### (4) その他

○ 普段（月曜日から金曜日）、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴をする 1 日当たりの時間は、昨年度に比べ増加している。特に 2 時間以上使用する割合が増加している。

今後は、1 人 1 台端末の家庭での活用を見据え、児童生徒の興味・関心や学校での学習につながるコンテンツを紹介する等、家庭で効果的な ICT 機器の使用について情報発信する必要がある。また、引き続き家庭での時間の使い方や SNS やインターネット等の利用の仕方について家庭と連携して共通理解を図る必要がある。



## IV 今後の取組

### 1 「しまねの学力育成推進プラン」の推進

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、各学校における全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

#### (1) 授業の質の充実

県学力調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

◎今年度の全国学力・学習状況調査を受けて、「教育情報紙第51号」（令和6年1月）で市町村教育委員会・各学校に提案した取組を継続する。

- ・全教員が課題のあった問題等を解き、出題意図や解答のポイント、児童生徒の実態を共有したうえで、学習の系統性を踏まえ、身につけるべき資質・能力を明確にした授業改善に全校体制で取り組む。
- ・各単元（題材）の導入やまとめ、振り返り等の際に学力調査の問題を活用する。

○次年度の学習への接続として、フォローアップ教材を授業や家庭学習等で活用し、年度内に身につけるべき力を着実に身につけられるように指導する。

○自分の考えを語尾までしっかりと、自分の言葉で話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。

○話し合い場面において、話し合いの目的や視点に沿って、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表することを具体的に指導する。

○「調べる場面」「考えをまとめ、発表・表現する場面」「児童生徒同士がやり取りする場面」「児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面」などで1人1台端末の日常的な活用を一層進める。

○校区の小中学校においては、育てたい子ども像などを共有する取組を一層進めるとともに、小6児童については、調査結果に基づいた3学期の取組状況を小中間で共有する。

#### (2) 家庭学習の充実

家庭学習と授業との有機的な結びつきを図るとともに、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだすことができるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・「教育情報紙第49号（令和5年3月）」等を活用し、学習内容を定着させる宿題だけではなく、次の授業の課題に関わる宿題を出すなど、授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解し、家庭学習の在り方を見直す。
- ・自分にあった学習内容や方法を選んだり、学びを広げたり生かしたりできるよう、1人1台端末を活用しながら個に応じた家庭学習を充実させる。
- ・家庭学習の在り方や家庭での1人1台端末の使い方、SNS・インターネット等の利用の仕方について、家庭と連携し共通理解を図る。

### (3) 地域に関わる学習の充実

児童生徒一人一人が自ら課題を見付け、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える姿勢を育成する。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域の人・もの・ことの効果的な活用と、各教科等で身につけた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を図る。

## 2 県教育委員会の取組

- ・調査により明らかになった課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信するとともに、学校訪問指導及び教職員研修等において活用する。
- ・令和6年度から新たに小学校低学年段階における学習のつまずき等を把握し、授業改善や子どもたちの学習支援に生かすための調査を実施する。
- ・「しまねの学力育成プロジェクト」に取り組んでいる5市の取組と成果について、周知資料を作成し、各市町村・学校に配信する。
- ・全国学力・学習状況調査の振り返りについて、教育事務所ごとに行った学力育成会議での意見交換の内容を踏まえ、効果的な取組や授業改善につながる好事例を各市町村、学校に周知する。
- ・小・中・高の連携による一貫性をもった「総合的な学習（探究）の時間のあり方」の普及に向けて、「総合的な学習（探究）の時間ガイドブック」を活用した研修を引き続き実施する。